

技工部だより

医療技術部歯科技工部門 佐藤 秀行

令和5年4月より医療技術部歯科技工部門でお世話になっております、歯科技工士の佐藤秀行と申します。“秀行”と書いて“しゅうこう”と読みます。学生時代から珍しい読み名ということもあり“しゅうこう”と呼ばれていました。

この度は「技工部だより」の記事を寄稿させていただく機会を頂きましたので本年度、入職ということもあり僭越ながら自己紹介をさせていただきます。

出身は福井県福井市で恐竜、蟹、メガネで有名な県です。新潟とは同じ日本海側で気候、文化などが似ているところがあります。来春、北陸新幹線が敦賀まで延伸され新潟からも少し近くなりますので興味を持たれた方はぜひ観光に来てください。

幼少期からものづくりが好きで電子工作や壊れた家電製品を分解し修理するなど手を動かすのが好きな少年でした。ものづくりが好きな少年は必然的に工業高校の電気科に進学し部活でソーラーラジコンカーをチームで製作し夏休みの炎天下で日焼けも気にせず活動していました。石川県で行われた大会では惜しくも2年連続、準優勝止まり

と今では苦くも良い思い出です。

進学を機に新潟に越し10年になります。明倫短期大学生体技工専攻科を修了後、同学附属歯科診療所で6年間勤務してまいりました。前職では一般的な補綴がメインで義歯、クラウンブリッジ全般を担当していました。新潟大学では顎義歯やインプラントなど特殊な症例から放射線治療に用いるシーネ、ホッツ床など歯学部を有する病院ならではの幅広い装置の依頼にびっくりしています。大学病院という特殊な環境でいろいろな経験をさせていただき日々新しい発見や学びが多いこともあり楽しいです。

同時に難しい症例もたくさんあり判断に迷った際、一人で悩まず先輩技工士に相談できる環境で安心して仕事が出来ています。まだまだ技術を吸収すべき事が多く日々研鑽を積み知識、技術を向上させていきたいです。

最後に、まだまだ未熟者ではございますが新潟大学歯学部、病院の発展のために尽力していく所存です。皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

技工部だより

医療技術部歯科技工部門 清水浩紀

2023年4月より医療技術部歯科技工部門にて勤務しております清水浩紀と申します。

出身は岐阜県の大垣市です。岐阜県大垣市と聞いて分かる人は少ないと思いますが、山と川に囲まれ水の都と呼ばれる自然豊かな土地で新潟市とどこか雰囲気似ている場所です。大きく違うのは海があることでしょうか。20年間、内陸県民でしたので海を見るのがとても新鮮で、土日になると毎週のように海の方に出かけるのが最近の休日の過ごし方になっています。

今年の4月から新潟に移り住んでいますが、魚も酒もおいしく（日本酒は苦手ですが）信濃川沿いはのどかで住みやすそうな土地だなあと感じています。同期からは「新潟の冬は大変」と口をそろえて言われており、この後の季節を少し心配しています。

さて、私は地元岐阜県の歯科技工士学校卒業後、大阪大学歯学部附属病院にて1年間、歯科技

工士研修生として臨床的な知識技術を学びました。主にクラウンブリッジ、審美修復に興味を持ち技術を磨いておりましたが、大学病院では義歯やクラウンブリッジなどの一般的な補綴物だけでなく、顎義歯やシーネ、顎骨3Dモデルなど多岐にわたると実感しました。そこで大学病院の特殊な症例に携わっていきたく強く感じ、本院の募集に応募したところ縁あって採用いただきました。

新潟大学の技工室ではすべての種類の技工物を担当するので覚えることが本当に多く、毎日が少し大変ですが様々な経験を積むことができ自身のモチベーションになっています。

執筆時、入職してから約9ヶ月が経ちますが自分の知識技術不足を痛感する日々ですが、患者さんと歯科医師の先生方によりよい技工物が提供できるよう精一杯努めてまいります。これからもどうぞよろしく願いいたします。